

令和 6 年度 各 PCB 処理事業の取組状況

1. 概 況

JESCO の全 5 事業のうち、北九州、豊田、大阪 PCB 処理事業の 3 事業については、令和 5 年度末をもって全ての処理を終了しており、現在は、東京、北海道の 2 事業が操業している。

令和 7 年 1 月末の進捗率は、変圧器類（台）ではほぼ 100%（99.96%）（対前年度末 0.03 ポイント増）、コンデンサー類（台）で 99.8%（対前年度末 0.08 ポイント増）、PCB 油（t）ではほぼ 100%（99.995%）（対前年度末 0.013 ポイント増）、安定器・その他汚染物（t）で 99.1%（対前年度末 1.85 ポイント増）となった。

（1）東京 PCB 処理事業

処理対象物が大幅に減少していることに対応し、変圧器、コンデンサーは、事業所が設定する重点搬入期間に搬入し、処理を実施する方針としている。

令和 6 年度（1 月末現在）は、変圧器類 4 台、コンデンサー類 198 台の処理を行った。進捗率は、変圧器類が 100%、コンデンサー類が 99.8%となっており、順調に処理を進めている。

（2）北海道 PCB 処理事業

処理対象物の減少により、変圧器、コンデンサー、安定器・その他汚染物のいずれについても、搬入量見合いでの処理を実施している。

令和 6 年度（1 月末現在）は、変圧器類 1 台、コンデンサー類 119 台の処理を行った。進捗率は、変圧器類が 99.9%、コンデンサー類が 99.4%となっており、順調に処理を進めている。

安定器・その他汚染物については、令和 6 年度（1 月末現在）は北海道事業エリア分 23t、東京事業エリア分 372t の処理を進め、進捗率は 98.3%となっている。

なお、北九州、豊田、大阪 PCB 処理事業の終了後に当該事業エリアで発見された高濃度 PCB 廃棄物は、北海道 PCB 処理事業所で処理することとなり、令和 6 年 9 月から 12 月にかけて JESCO での登録を進めた（資料 1-2 参照）。

これらの PCB 廃棄物の北海道事業所への搬入は、令和 7 年 3 月 25 日以降に開始する予定としており、その後順次処理を行う。

表 1 に、事業所ごと・廃棄物の種類ごとの累計の処理量及び処理の進捗率を示すとともに、処理の進捗率について、図 1 に棒グラフで示した。

表 2－1、表 2－2 では、事業ごと・廃棄物の種類ごとの年度別の処理量の推移を示した。

表 3－1、表 3－2 では、東京、北海道事業について、廃棄物の種類ごとの令和 6 年度の月別処理実績を示すとともに、図 2－1、図 2－2 においてそれを棒グラフで示した。

表 1 各 PCB 処理事業の処理の進捗率（令和 7 年 1 月末）

変圧器類	累計処理台数	未処理台数	処理対象台数	処理進捗率	処理開始時期	処理終了時期
北九州PCB処理事業所	2,823	0	2,823	100.0%	平成16年12月 (2004年12月)	平成31年3月 (2019年3月)
豊田PCB処理事業所	2,493	0	2,493	100.0%	平成17年 9月 (2005年9月)	令和6年3月 (2024年3月)
東京PCB処理事業所	3,803	0	3,803	100.0%	平成17年11月 (2005年11月)	令和8年3月※ (2026年3月)
大阪PCB処理事業所	2,799	0	2,799	100.0%	平成18年10月 (2006年10月)	令和6年3月 (2024年3月)
北海道PCB処理事業所	4,130	6	4,136	99.9%	平成20年 5月 (2008年5月)	令和8年3月※ (2026年3月)
JESCO全社	16,048	6	16,054	99.96%		

コンデンサー類	累計処理台数	未処理台数	処理対象台数	処理進捗率	処理開始時期	処理終了時期
北九州PCB処理事業所	59,403	0	59,403	100.0%	平成16年12月 (2004年12月)	平成31年3月 (2019年3月)
豊田PCB処理事業所	79,136	0	79,136	100.0%	平成17年 9月 (2005年9月)	令和6年3月 (2024年3月)
東京PCB処理事業所	85,596	176	85,772	99.8%	平成17年11月 (2005年11月)	令和8年3月※ (2026年3月)
大阪PCB処理事業所	85,340	0	85,340	100.0%	平成18年10月 (2006年10月)	令和6年3月 (2024年3月)
北海道PCB処理事業所	69,910	409	70,319	99.4%	平成20年 5月 (2008年5月)	令和8年3月※ (2026年3月)
JESCO全社	379,385	585	379,970	99.8%		

安定器・その他汚染物	累計処理量(t)	未処理重量	処理対象重量(t)	処理進捗率	処理開始時期	処理終了時期
北九州PCB処理事業所	10,296	0	10,296	100.0%	平成21年7月 (2009年7月)	令和6年3月 (2024年3月)
安定器	8,755	0	8,755	100.0%		
その他汚染物	1,540	0	1,540	100.0%		
北海道PCB処理事業所	10,878	188	11,067	98.3%	平成25年9月 (2013年9月)	令和8年3月※ (2026年3月)
安定器	9,867	168	10,034	98.3%		
その他汚染物	1,012	20	1,032	98.0%		
JESCO全社	21,174	188	21,362	99.1%		

※ 東京及び北海道 PCB 処理事業所については、事業終了準備期間末を示す。

注 1 処理実績は、中間処理完了時点（マニフェスト単位）のもの。また、試運転物を含む。

注 2 東京事業所の処理対象台数は、東京事業部会（R6.10.23）で決定された数字。北海道事業所の処理対象量は、令和 7 年 1 月末時点の登録量を元にした。また、安定器・その他汚染物の処理量、処理対象重量は缶重量を含む。

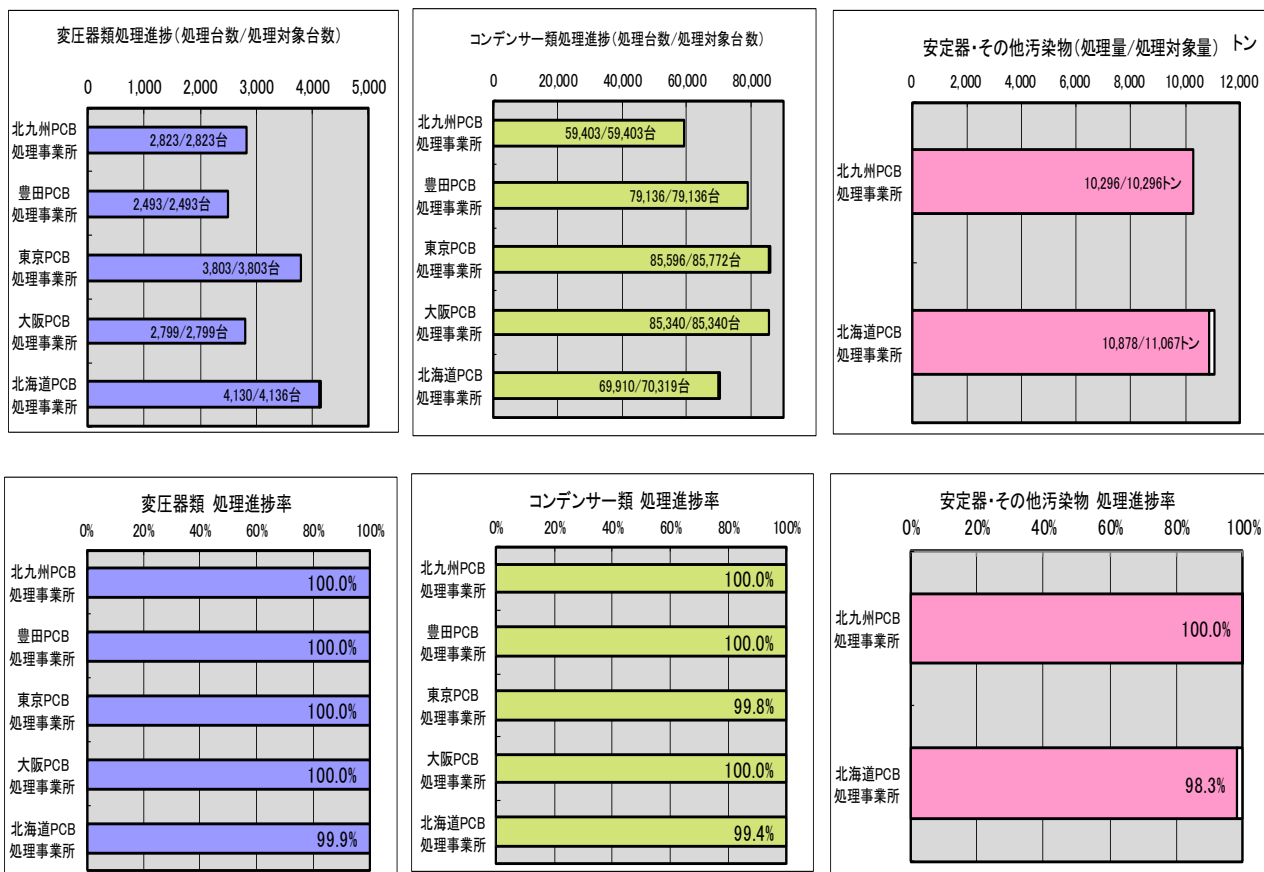


図 1 各 PCB 処理事業の処理の状況（令和 7 年 1 月末）

注：棒グラフの色塗りつぶしの部分は処理済みであることを、また、白抜きの部分は未処理であることを表す。

表 2 - 1 各 PCB 処理事業の年度別処理実績（変圧器・コンデンサー等）

事業	廃棄物の種類	単位	年度																			合 計	
			H16- H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 /R1	R2	R3	R4	R5		R6
北九州	変圧器類	台	288	241	214	178	250	303	339	312	279	146	62	84	112	15	-	-	-	-	-	-	2,823
	コンデンサー類	台	955	1,010	1,595	1,383	4,093	6,769	8,196	7,887	7,750	5,698	3,077	3,612	4,799	2,579	-	-	-	-	-	-	59,403
	PCB油類																						
	PCB油	本	74	36	11	37	25	31	56	159	189	106	69	77	127	108	-	-	-	-	-	-	1,105
		t	16.9	10.5	1.2	9.8	9.8	0.4	4.1	20.2	37.6	11.5	12.6	13.0	15.2	5.6	-	-	-	-	-	-	168
	保管容器のみ	本	2	2	11	3	50	85	192	266	393	600	159	111	183	363	-	-	-	-	-	-	2,420
	PCB分解量	t	65.0	67.7	78.6	67.6	151.0	249.3	293.6	292.3	297.7	228.8	140.3	156.1	178.6	67.5	46.8	28.3	16.4	5.9	0.0	-	2,432
豊田	変圧器類	台	49	77	191	304	286	187	142	220	201	148	104	102	96	108	150	88	31	8	1	-	2,493
	コンデンサー類	台	1,185	1,605	2,289	3,836	4,753	3,770	3,910	5,126	5,971	5,873	6,184	7,320	8,404	6,945	5,823	2,721	2,092	989	340	-	79,136
	PCB油類																					-	
	PCB油	本	33	1	15	30	47	56	28	64	123	22	27	93	99	323	300	371	426	200	56	-	2,314
		t	8.2	0.3	3.9	7.2	13.3	13.3	8.1	18.0	33.5	2.4	0.1	2.5	0.6	13.2	38.1	36.4	10.0	1.5	0.1	-	210.7
	保管容器のみ	本	0	0	0	0	2	10	10	17	23	197	381	396	450	432	603	363	267	68	25	-	3,244
	PCB分解量	t	31.5	63.7	115.8	186.5	199.4	159.9	144.1	217.9	207.5	214.3	190.6	165.5	171.2	112.7	96.1	83.5	53.2	21.4	7.4	2.6	2,444.9
東京	変圧器類	台	122	0	86	238	268	357	415	450	512	328	295	262	147	149	67	25	76	2	0	4	3,803
	コンデンサー類	台	573	46	687	2,256	3,395	4,823	4,820	5,902	6,331	6,722	6,902	6,675	6,797	7,851	6,794	5,319	7,189	2,043	273	198	85,596
	PCB油類																						
	PCB油	本	75	0	64	231	444	383	621	700	499	299	88	218	232	469	423	770	1,276	146	39	1	6,978
		t	15.8	0.0	19.2	73.6	132.0	112.0	158.0	182.2	128.0	64.1	2.6	20.9	28.3	67.4	66.1	118.2	190.5	2.9	5.2	0.0	1,386.9
	保管容器のみ	本	0	0	5	2	3	0	0	0	0	60	189	380	553	1313	1066	616	745	248	60	29	5,269
	PCB分解量	t	30.7	26.0	52.4	157.8	272.9	330.7	342.9	426.4	420.3	412.8	420.0	402.7	425.7	349.1	169.8	151.6	220.5	63.6	26.3	9.4	4,711.5
大阪	変圧器類	台		76	290	289	404	376	297	199	279	125	97	92	80	93	38	44	17	3	0	-	2,799
	コンデンサー類	台		1,883	4,875	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,516	5,001	4,789	3,517	3,982	4,739	3,200	387	314	-	85,340
	PCB油類																					-	
	PCB油	本		52	53	87	85	83	197	256	264	86	64	89	129	211	247	425	311	331	181	-	3,151
		t		14.2	11.0	21.2	16.6	17.3	43.9	39.5	62.4	2.1	1.6	7.3	9.1	23.7	16.4	47.3	33.3	60.6	30.0	-	457.4
	保管容器のみ	本		0	0	0	0	1	0	3	29	33	57	237	259	198	252	193	85	37	18	-	1,402
	PCB分解量	t	0.0	33.9	165.7	181.9	236.5	205.3	272.8	293.3	278.0	195.9	173.3	149.5	133.7	100.3	75.7	79.8	67.9	45.6	25.0	0.5	2,714.5
北海道	変圧器類	台			19	138	350	632	681	688	395	185	178	189	219	149	94	63	108	32	9	1	4,130
	コンデンサー類	台			224	1,822	4,803	6,630	6,539	7,151	7,748	7,535	5,690	3,761	4,053	2,783	2,573	2,016	2,861	2,818	784	119	69,910
	PCB油類																						
	PCB油	本			47	23	2	33	17	63	149	21	59	18	130	164	117	120	227	43	1	0	1,234
		t			13.0	5.1	0.2	8.3	4.0	18.1	37.1	4.3	11.1	1.8	23.9	29.8	21.6	15.7	30.3	5.7	0.0	0.0	229.9
	保管容器のみ	本			0	0	0	1	0	5	28	2	76	388	451	359	290	214	146	166	28	0	2,154
	PCB分解量	t			11.6	65.0	194.9	261.8	294.5	350.3	353.2	285.2	235.6	191.0	186.6	160.8	91.6	61.8	71.3	58.9	12.4	5.5	2,892.0
合計	変圧器類	台	459	394	800	1,147	1,558	1,855	1,874	1,869	1,666	932	736	729	654	514	349	220	232	45	10	5	16,048
	コンデンサー類	台	2,713	4,544	9,670	14,433	22,736	28,549	29,617	33,939	36,436	32,919	27,369	26,369	28,842	23,675	19,172	14,795	15,342	6,237	1,711	317	379,385
	PCB油類																						
	PCB油	本	182	89	190	408	603	586	919	1,242	1,224	534	307	495	717	1,275	1,087	1,686	2,240	720	277	1	14,782
		t	40.9	25.0	48.4	116.8	171.8	151.3	218.1	277.9	298.6	84.4	28.0	45.5	77.0	139.6	142.3	217.6	264.1	70.7	35.3	0.0	2,453.3
	保管容器のみ	本	2	2	16	5	55	97	202	291	473	892	862	1,512	1,896	2,665	2,211	1,386	1,243	519	131	29	14,489
	PCB分解量	t	127.2	191.3	424.0	658.8	1,054.6	1,207.0	1,347.9	1,580.2	1,556.7	1,337.0	1,159.8	1,064.9	1,095.7	790.4	480.0	405.0	429.4	195.4	71.1	18.0	15,194.6

・処理実績は、中間処理完了時点（マニフェスト単位）のもの。また、試運転物を含む。

表 2 - 2 各 PCB 処理事業の年度別処理実績（安定器・その他汚染物）

事業	廃棄物の種類	単位	年度																		合 計		
			H16- H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 /R1	R2	R3	R4		R5	R6
北九州	安定器・汚染物	t				31.2	144.3	301.6	497.7	613.2	729.6	517.7	803.4	788.0	899.0	1,077.2	1,417.7	1,420.2	783.8	271.1	-	10,295.6	
	安定器	個(千)				9	46	95	148	184	191	140	221	216	222	294	406	423	205	76	-	2,877	
		容器無	t				25.0	127.6	264.7	414.2	516.4	535.3	392.7	618.7	605.4	622.3	824.5	1,137.8	1,184.4	573.4	212.4	-	8,054.8
		容器有	t				27.1	138.7	287.7	450.3	561.3	581.8	426.8	672.5	658.1	676.4	896.2	1,236.7	1,287.4	623.3	230.8	-	8,755.2
	その他汚染物	t				4.0	5.6	13.9	47.5	51.8	147.8	90.9	130.9	129.9	222.6	181.0	181.0	132.8	160.6	40.3	-	1,540.4	
北海道	安定器・汚染物	t								352.5	642.0	811.3	1,006.2	1,021.3	974.7	1,061.2	1,176.6	1,273.3	1,343.2	821.0	395.0	10,878.2	
	安定器	個(千)								112	200	253	305	303	290	311	352	371	389	230	124	3,242	
		容器無	t								314.8	561.4	709.0	854.5	847.9	813.1	871.6	985.3	1,038.3	1,089.2	644.6	347.5	9,077.2
		容器有	t								342.2	610.2	770.6	928.8	921.7	883.8	947.4	1,071.0	1,128.6	1,183.9	700.7	377.7	9,866.6
	その他汚染物	t								10.3	31.8	40.6	77.4	99.6	90.9	113.8	105.6	144.6	159.4	120.3	17.4	1,011.7	
合 計	安定器・汚染物	t				31.2	144.3	301.6	497.7	965.7	1,371.6	1,328.9	1,809.6	1,809.2	1,873.7	2,138.5	2,594.2	2,693.4	2,127.1	1,092.1	395.0	21,173.9	
	安定器	個(千)				9	46	95	148	297	392	393	526	519	513	606	758	794	594	306	124	6,119	
		容器無	t				25.0	127.6	264.7	414.2	831.3	1,096.7	1,101.7	1,473.2	1,453.3	1,435.4	1,696.2	2,123.1	2,222.7	1,662.6	857.0	347.5	17,132.0
		容器有	t				27.1	138.7	287.7	450.3	903.6	1,192.0	1,197.5	1,601.3	1,579.7	1,560.2	1,843.6	2,307.7	2,416.0	1,807.1	931.5	377.7	18,621.8
	その他汚染物	t				4.0	5.6	13.9	47.5	62.1	179.6	131.5	208.3	229.5	313.5	294.8	286.5	277.4	319.9	160.6	17.4	2,552.1	

- ・処理実績は、中間処理完了時点（マニフェスト単位）のもの。また、試運転物を含む。
- ・安定器の個数は、容器無重量（容器有重量に 0.92 を乗じたもの）から安定器 1 台当たりの平均重量（2.8kg/個）を除いて算出。

表 3 - 1 東京、北海道処理事業の令和 6 年度月別処理実績（変圧器・コンデンサー等）

事業	廃棄物の種類	単位	月別												合 計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京	変圧器類	台	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0			4
	コンデンサー類	台	3	0	0	32	42	34	43	8	36	0			198
	PCB油類														
	PCB油	本	1	0	0	0	3	2	0	3	4	0			13
		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0			0.4
	保管容器のみ	本	0	0	0	0	2	6	0	5	2	0			15
	PCB分解量	t	0.7	0.0	0.0	1.2	1.3	1.6	0.1	2.2	1.0	1.3			9.4
北海道	変圧器類	台	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			1
	コンデンサー類	台	12	0	8	16	15	17	1	0	3	47			119
	PCB油類														
	PCB油	本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
	保管容器のみ	本	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			1
	PCB分解量	t	0.5	0.8	0.1	0.5	1.6	0.7	0.7	0.2	0.3	0.2			5.5
合 計	変圧器類	台	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0			5
	コンデンサー類	台	15	0	8	48	57	51	44	8	39	47			317
	PCB油類														
	PCB油	本	1	0	0	0	3	2	0	3	4	0			13
		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0			0.4
	保管容器のみ	本	0	0	0	0	2	6	0	5	3	0			16
	PCB分解量	t	2.0	1.1	0.1	2.0	2.9	2.8	1.9	2.4	1.3	1.5			18.0

表３－２ 北海道処理事業の令和６年度月別処理実績（安定器・その他汚染物）

事業	廃棄物の種類	単位	月別												合 計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
北海道	安定器・汚染物	t	42.9	71.0	98.4	50.3	37.9	0.0	0.0	40.3	23.7	30.6			395.0
	安定器	個(千)	13	22	31	16	12	0	0	13	7	10			124
		容器無 t	36.8	60.5	88.2	43.8	34.3	0.0	0.0	36.5	20.6	26.8			347.5
		容器有 t	40.0	65.7	95.8	47.6	37.3	0.0	0.0	39.6	22.4	29.1			377.7
	その他汚染物	t	2.9	5.2	2.5	2.7	0.6	0.0	0.0	0.6	1.3	1.5			17.4

・処理実績は、中間処理完了時点（マニフェスト単位）のもの。また、試運転物を含む。

・安定器の個数は、容器無重量（容器有重量に0.92を乗じたもの）から安定器1台当たりの平均重量（2.8kg/個）を除いて算出。

○変圧器類及びコンデンサー類

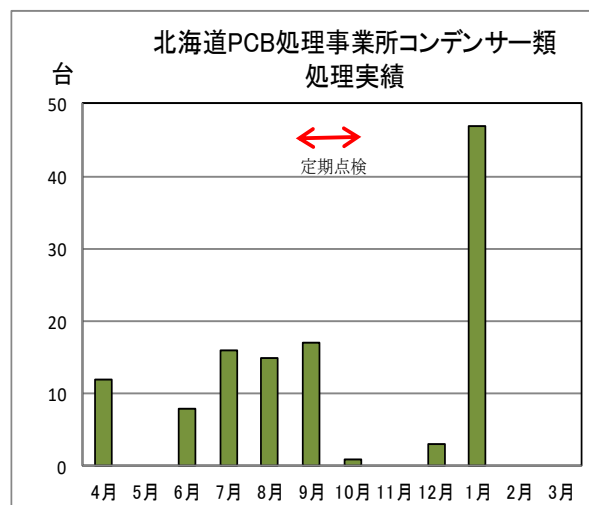
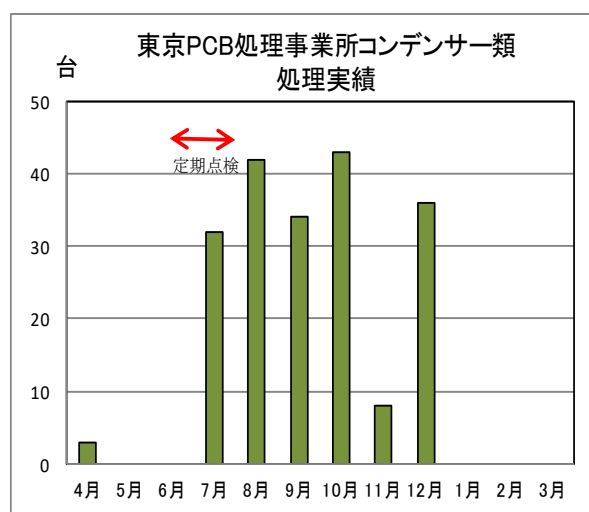
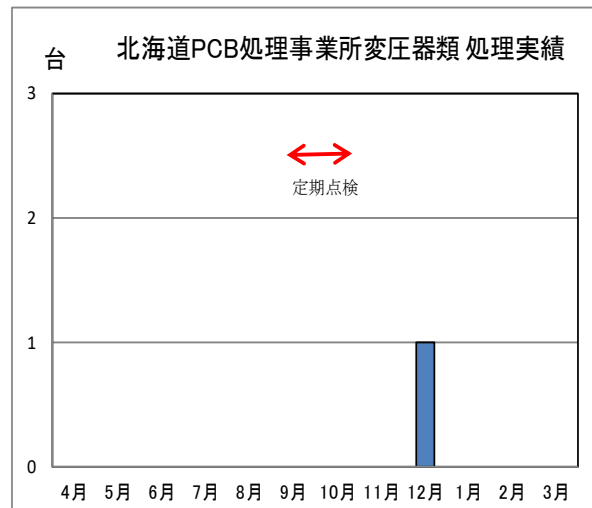
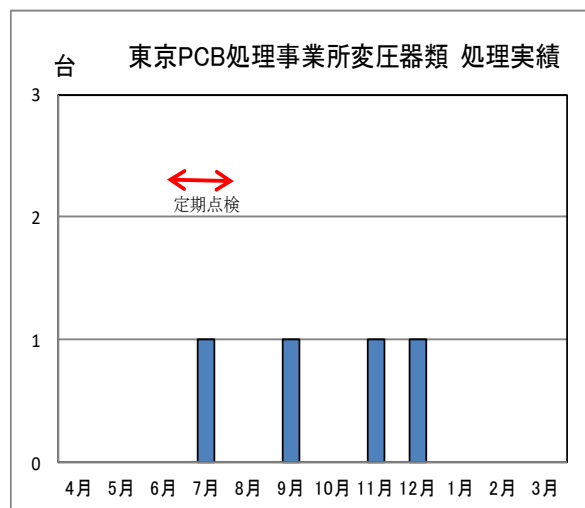


図２－１ 東京、北海道処理事業の令和６年度月別処理実績
（変圧器・コンデンサー）

○安定器・その他汚染物（北海道事業所）

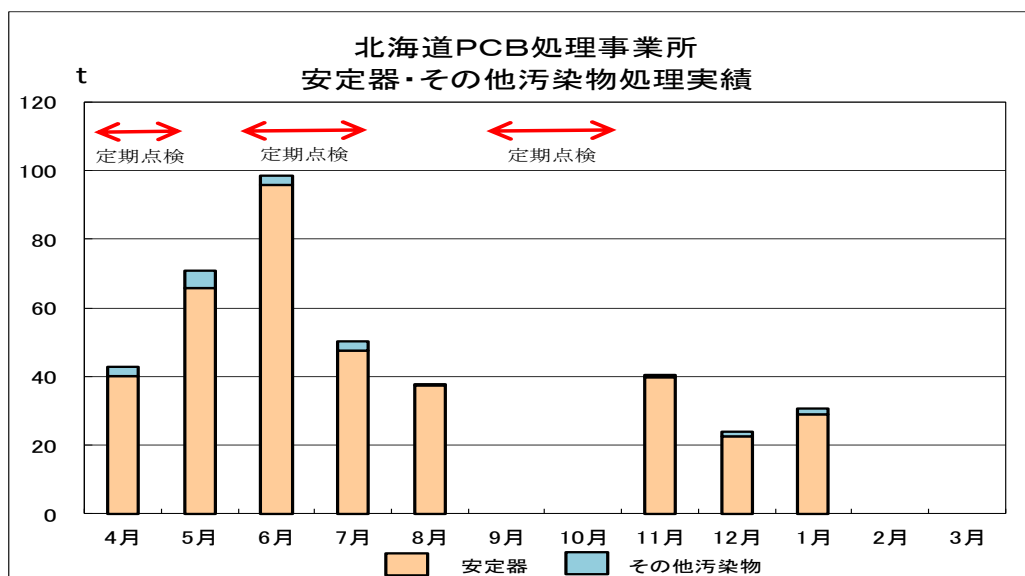


図 2 - 2 北海道処理事業の令和 6 年度月別処理実績
（安定器・その他汚染物）

2. 周辺環境の保全への対応

各PCB処理事業所では、それぞれの事業における立地状況等に応じた環境モニタリング計画を定め、これに従い排出源及び周辺環境のモニタリングを行っている。一部の測定項目についてはオンラインモニタリングも実施しながら、常に管理目標値を超えないように監視している。令和6年度のモニタリング結果は表4のとおりである。（詳細は別紙1及び別紙2参照）

表4 各PCB処理事業所における排出源及び周辺環境のモニタリング結果【令和6年度】

	要素	項目	北九州			豊田		東京		大阪		北海道		
			測定回数/年		結果	測定回数/年	結果	測定回数/年	結果	測定回数/年	結果	測定回数/年		結果
			1期	2期								当初	増設	
排出源	排気	PCB	4	4	○	4	○	12(月1)	○	2	○	4	4	○
		ダイオキシン類	2	4(※1)	○	4	○	4(※2)	○	2	○	4	4	○
		ベンゼン	-	4	○	4	○	-	-	2	○	4	-	○
		SOx	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	○
		NOx	-	-	-	-	-	-	-	2	○	2	4	○
		HCl	-	-	-	-	-	-	-	2	○	-	4	○
		ばいじん	-	-	-	-	-	-	-	2	○	2	4	○
		イソプロピルアルコール	-	-	-	-	-	4(※2)	○	-	-	-	-	-
		水銀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	○
	排水	PCB	2(下水排水渠)		○	4	○※4	12(月1)	○	1	○	-	-	-
		ダイオキシン類	-	-	-	4	○	4(※2)	○	1	○	-	-	-
		COD	-	-	-	4	○	-	-	-	-	2	2	○
		全窒素	-	-	-	最終放流口 4 浄化槽出口 2	○	12(月1)	○	-	-	2	2	○
		n-ヘキサン抽出物質	-	-	-		○		○	-	-	2	2	○
		全磷	-	-	-		○		○	-	-	2	2	○
		pH	-	-	-		○		○	-	-	2	2	○
		SS	-	-	-		○		○	-	-	2	2	○
		BOD	-	-	-		○		○	-	-	2	2	○
		その他の項目	-	-	-	-	-	2	○	-	-	-	-	-
	雨水	PCB	1(敷地出口雨水)		○	-	-	4(※2)	○	1	○	-	-	-
		ダイオキシン類			○	-	-	4(※2)	○	1	○	-	-	-
	悪臭	アセトアルデヒド	1(敷地境界)		○	1	○	-	-	1	○	1 (当初、敷地境界)		○
		トルエン			○	1	○	-	-	1	○			○
		キシレン			○	1	○	-	-	-	-			○
		プロピオン酸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
		ノルマル酪酸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
		臭気指数	-	-	-	-	-	-	-	1	○	-	-	-
		許容臭気排出強度	-	-	-	-	-	-	-	1	○	-	-	-
	騒音	騒音	1(敷地境界)		○	1	※4	-	-	1	○	1(敷地境界)		○
	振動	振動	-	-	-	1	※4	-	-	1	○	1(敷地境界)		○
周辺環境	大気	PCB	4(敷地南西端)		○	4	○※4	4(※2)	○	4	○	4 (敷地境界、PCB処理情報センター)		○
		ダイオキシン類			○	4	○※4	5(※2)※3	○	4	○			○
		ベンゼン			○	4	○※4	-	-	4	○			○
	水質	PCB	4(雨水潤滑湾出口 沖)		○	-	-	-	-	-	-	6 (雨水幹線排水路合流前)		○
		ダイオキシン類			○	-	-	-	-	-	-			○
	地下水	PCB	1(雨水敷地出口 付近)		○	2	○	-	-	-	-	-	-	-
		ダイオキシン類			○	2	○	-	-	-	-	-	-	-
	土壌	PCB	1(雨水敷地出口 付近)		○	1	○	-	-	-	-	-	-	-
		ダイオキシン類			○	1	○	-	-	-	-	-	-	-
	底質	PCB	1(雨水潤滑湾出口 沖)		○	-	-	-	-	-	-	1(雨水幹線排水路・上流、下流)		○
		ダイオキシン類			○	-	-	-	-	-	-			○
	生物	PCB	1(雨水潤滑湾出口 付近)		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ダイオキシン類			○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

○：自主管理目標値等の範囲内 -：測定対象外

※1：モニタリング計画上年2回であるが、当面の間年4回測定としている。

※2：「東京 PCB 処理事業所 PCB 処理施設の解体撤去における排出源モニタリング及び周辺環境モニタリングに関する基本的対応(2023年10月30日)」に基づく頻度。工事期間に応じて、実施回数を設定する。「3ヵ月以内：1回」、「4～6ヵ月以内：2回」、「7～9ヵ月以内：3回」、「10～12ヵ月以内：4回」

※3：10/2-10/9の測定結果が環境基準0.6pg-TEQ/m³（年平均）を単月度の測定で超過したため（南東端0.76、北西端1.0）、10/30-11/6に追加測定した（南東端0.11、北西端0.11）。

※4：R7.1分析実施済。R6年度内に結果受領予定（年4回実施分についても同様。結果○は第3回分）

3. 作業者の安全衛生に関する対応

PCB廃棄物処理施設では、以下の作業安全衛生対策を行っている。

- ・作業環境管理のための設備側の対策として、局所排気等の換気システムの設置や作業環境モニタリングの実施等
- ・作業管理として、管理区域レベルやその作業に応じた保護具の着用、作業時間の制限等の実施
- ・作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施、定期的な血中PCB及びダイオキシン類濃度の測定・管理

(1) 各 PCB 処理事業の作業環境管理の状況

各事業所における令和5年度下期、令和6年度上期の作業環境の状況を表5に示す。各事業所において、特定化学物質障害予防規則（特化則）に基づく法定測定等を実施し、作業環境濃度の把握に努め、濃度が高いエリアについては作業環境改善のための対策を講じることとしている。

表5 各PCB処理事業所における作業環境の状況【令和5年度下期、令和6年度上期】

	項目	管理値 ¹	北九州 ² 2期施設	豊田	東京	大阪	北海道 当初施設	北海道 増設施設
作業環境	PCB (法定)	0.01 mg/m ³ (管理値)	○	○	○	○	○	○
	DXN類	2.5 pg- TEQ/m ³ (管理値)	○	コンデンサ解体 エリア等(第3管 理区分)で超過 2.5~35pg-TEQ/m ³	○	大型解体室(第3 管理区分)で超過 6.4~19pg-TEQ/m ³	コンデンサ蓋切断 装置等で超過 3.4~24pg-TEQ/m ³	○
				入域時間(15分/日 以内、75分/週以 内)で管理		入域時間(4時間/ 日、月平均3時間/ 日以内)で管理	作業時間(10時間/ 週)の設定、活性炭 吸着槽付集塵機の 活用や清掃	

注 ○：管理目標値未満である項目

(2) 各 PCB 処理事業の作業管理の状況

各事業所において特に濃度の高いエリアは、作業者が常時入室して作業するエリアではないが、これらのエリアに作業者が入室する際には、入室時間の制限や保護具類の装着を強化すること等により、作業者の PCB の曝露防止を図っている。

¹ 管理値と許容値については下記のとおり。

管理濃度・管理値…労働安全衛生法第65条の2第2項に基づく「作業環境評価基準」(昭和63年労働省告示第79号)において示されている「管理濃度」。ダイオキシン類については「廃棄物焼却施設関連作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」(平成13年厚生労働省基安発第20号)において示されている管理すべき濃度基準。

許容濃度・許容値…日本産業衛生学会が「労働者が1日8時間、週間40時間程度、肉体的に激しくない労働強度で有害物質に曝露される場合に、当該有害物質の平均曝露濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響が見られないと判断される濃度である」として勧告している作業環境濃度。

² 北九州1期施設における作業環境濃度測定は、令和3年度上期で終了している。

（３）各 PCB 処理事業の健康管理の状況

作業従事者の血中 PCB 濃度の状況について、操業開始時点からの推移を図 3 に示す。令和 2 年度以降、日本産業衛生学会が定めた生物学的許容値（25ng/g-血液）超過者はいない。作業安全衛生部会の指導・助言のもと、継続的な作業環境改善対策の実施、作業管理の徹底（保護具管理と着用の徹底、一部管理区域内での作業時間管理の徹底等）や作業従事者の配置換え等に取り組み、曝露量の低減を図り、平成 20 年度以降、上 95%値は低下傾向となっている。

さらに、血中 PCB 濃度が比較的高い作業従事者については、保護具の着用状況の個別確認・指導や曝露の少ない作業への配置換え等を行うとともに、専門家による診察を受ける等のフォローアップを行い、改善を図っている。これらの措置により、血中 PCB 濃度は低下または横ばいで推移している。

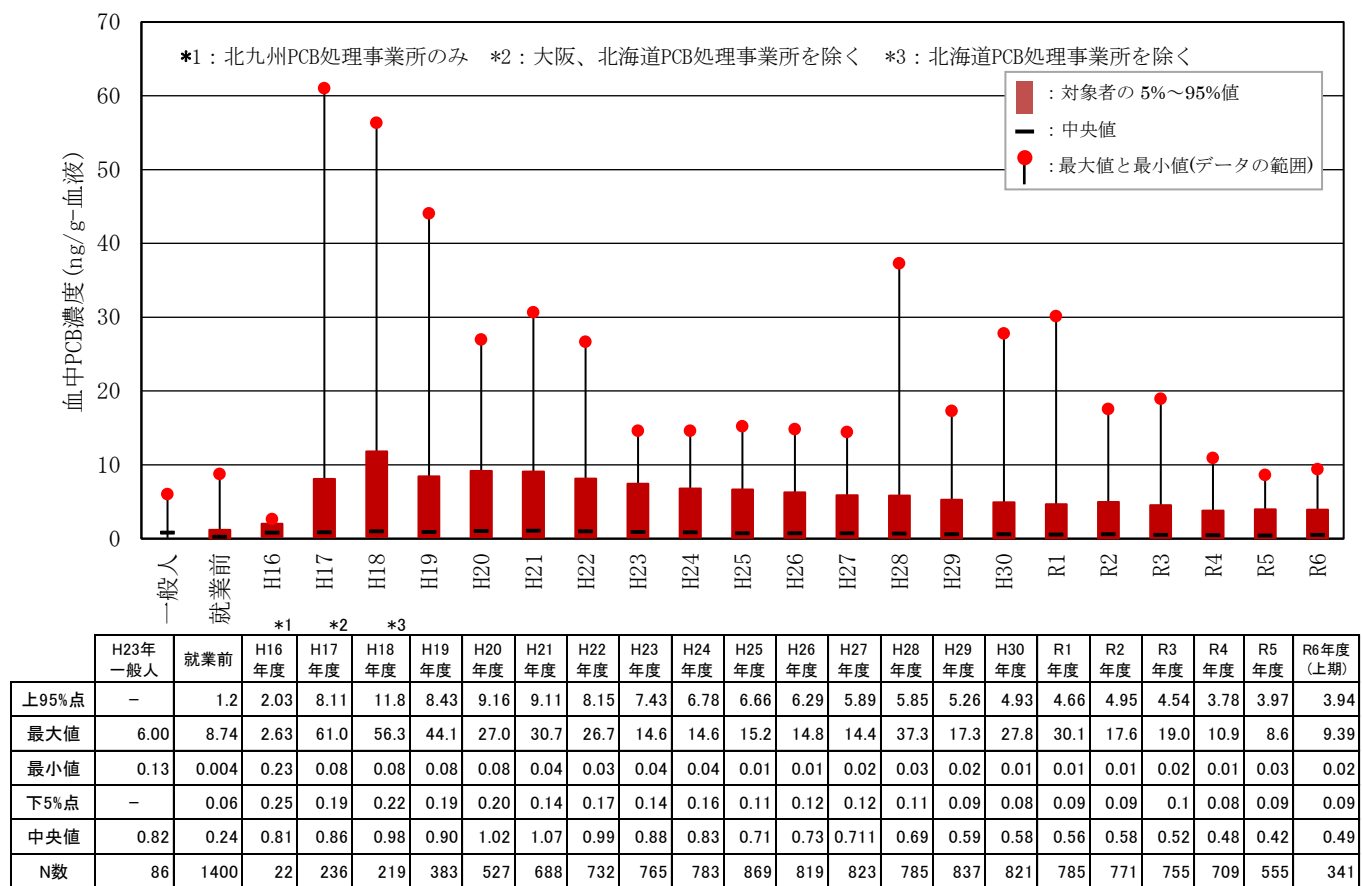


図 3 血中PCB濃度の推移（5～95%箱ひげ図）

（４）労働災害の状況

JESCO の全事業所の運転会社における休業災害（休業 1 日以上労働災害）は平成 18 年度～令和 6 年度の 19 年間で計 16 件発生し、休業日数は延べ 528 日である。死亡災害は発生していない。令和 6 年度は休業災害の発生はない。

なお、北海道事業所では自治体や部会等への報告及び情報公開の義務のある微傷災害（不休業災害）として、階段を踏み外し左足ふくらはぎを挫傷する事象が 1 件発生している。

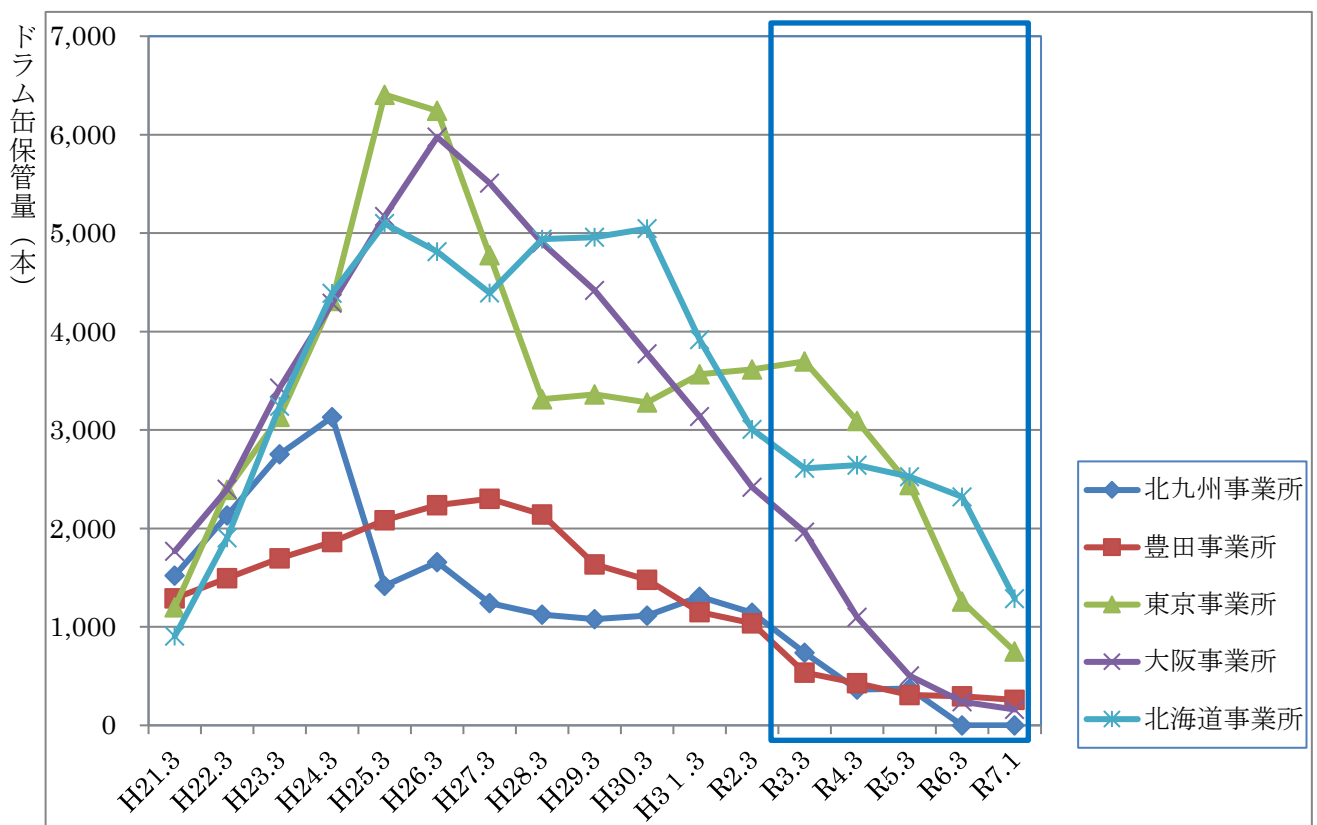
4. 運転廃棄物等の処理に関する対応

JESCO 各 PCB 処理事業所では、PCB 処理に伴い発生する廃活性炭・防護具類や、機器・配管等の内部洗浄に使用したアルカリ廃液、変圧器・コンデンサーの内部構成部材である紙・木等の含浸物、廃安定器残部材等について、発生事業所での所内処理、無害化処理認定施設等を活用した処理を進めている他、高濃度運転廃棄物については事業所内処理による処理を実施し、計画的に処理を進めている。

(1) 運転廃棄物等の保管状況

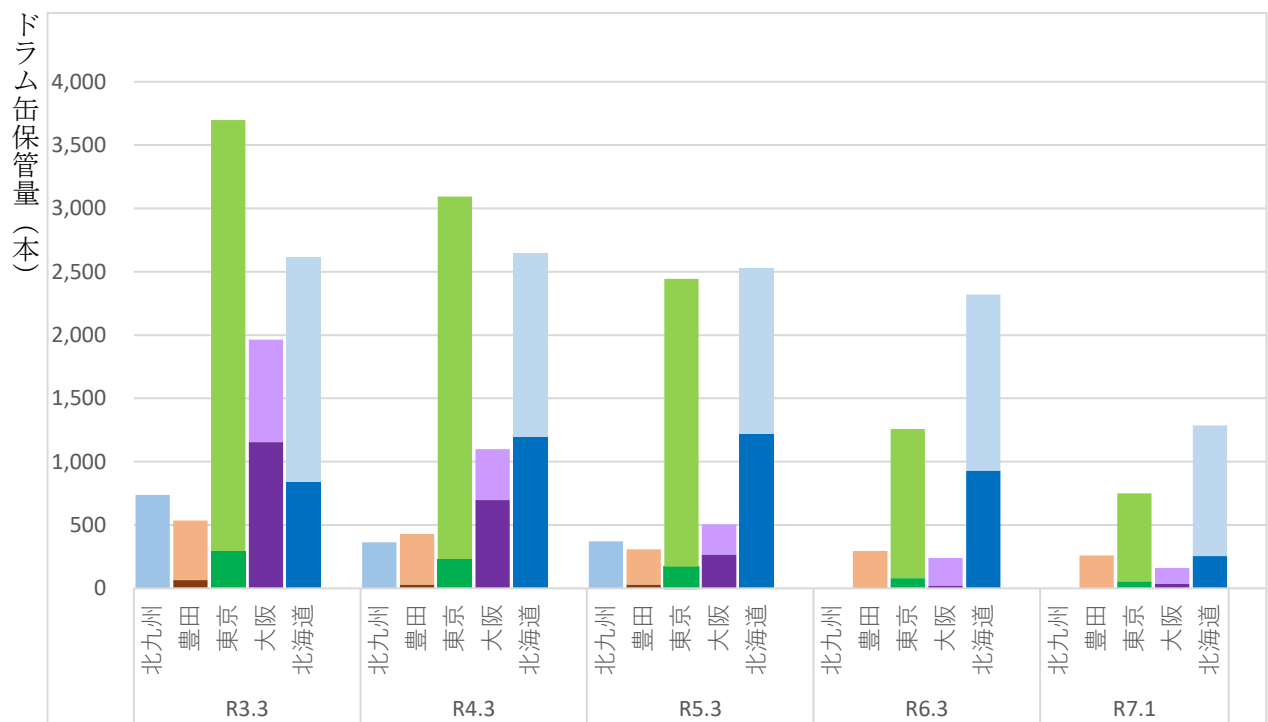
運転廃棄物等の保管状況は、令和 7 年 1 月末現在で約 2 千 4 百本（令和 5 年度末は約 4 千 1 百本）となっており、所内処理、平成 26 年度より開始した無害化処理認定施設等への払出し、平成 27 年度より開始した事業所間移動により、図 4 のとおり減少している状況にある。北九州事業所においては、令和 5 年度末以降、保管数量はゼロとなっている。

令和 2 年度末からの高濃度・低濃度別の運転廃棄物等の保管本数の推移については、図 5 のとおりである。



※北九州事業所は 27L ペール缶数量を含み、ドラム缶との容量比=27L/200L で換算。

図 4 各事業所の運転廃棄物等の保管量の推移



※濃い色が高濃度。北九州事業所は低濃度のみ。

図5 高濃度・低濃度別の運転廃棄物等に関する保管量の推移（令和2年度末～）

(2) 無害化処理認定施設等への払出し状況

低濃度運転廃棄物の無害化処理認定施設等への払出し状況については、表6のとおりである。

表6 操業に伴う無害化処理認定施設等への低濃度物の払出し状況
(H24年度～R5年度迄及びR7年1月末)

(ドラム缶換算本数※)

年度 品目	東京		北海道		計(本)
	-R5年度	R6年度	-R5年度	R6年度	
防護具類	8,475	201	1,816	-	10,492
含浸物	22,768	27	2,220	-	25,015
廃活性炭	12,076	60	2,896	144	15,176
アルカリ廃液	-	-	-	-	0
スクラパー油	-	-	-	-	0
低沸油	-	-	-	-	0
廃油	-	-			0
タール・ 木酢液	-	-	-	-	0
廃TCB	-	-	-	-	0
ドライクリーニング 廃溶剤	-	-	-	-	0
廃安定器 残部材	-	-	229	-	229
廃安定器 分離	-	-	1,427	-	1,427
廃油入り 汚泥	-	-	-	-	0
洗浄廃水	-	-	-	-	0
金属及び廃プラ その他	947	790	-	-	1,637
廃アルカリ 汚泥	53	-	-	-	53
リンから発生する 廃アルカリ	2,037	-	-	-	2,037
廃アルカリを 中和した汚泥	79	7	-	-	86
廃酸・廃液		-	-	-	0
金属くず	14	89	-	-	103
コンクリートくず	118	-	-	-	118
炭化物・ 金属くず	-	-	-	-	0
計(本)	46,567	1,174	8,588	144	56,373
	47,741		8,732		

※一部 40L 感染性廃棄物容器の荷姿での払出本数をドラム缶本数に換算

（３）運転廃棄物（高濃度）の処理

高濃度運転廃棄物の処理は、事業所内処理に加え、事業所間移動による処理を通じて JESCO 全体で進めている。このうち、事業所間移動による処理は令和 5 年度末で終了し、総本数は 6,023 本（ドラム缶本数）、総重量は 512,414 kg であった。

令和 7 年度末まで操業を続ける東京と北海道事業所では、現在、高濃度運転廃棄物は事業所内で処理している。

（４）今後の対応

運転廃棄物について、各所内での適切な処理と無害化処理認定施設等を活用し、計画的に処理を進めていく。

5. トラブルへの対応等

(1) トラブルの発生状況

○令和6年度のトラブル

令和6年度のトラブル発生件数は8件と令和4年度以来毎年増加の結果となった。表7にトラブルの件名等を、発生及び対応の状況について別紙3及び別紙4に示した。

令和6年3月末に北九州、豊田及び大阪PCB処理事業所が営業物の処理を終了し解体撤去に移行し、東京及び北海道PCB処理事業所は引き続き操業していることから、トラブルの内容も運転操業時のものと解体撤去工事に関するものが混在している。

表7 令和6年度に発生したトラブル

種別	事業所	件名	発生日	解体関連
環境 安全 異常	豊田	搬出トラックヤードにおける排出油払出用アームのホース接続部からのPCB非含有排出油の漏洩	4月25日	○
	北九州	2期施設の間接処理室におけるバルブ誤操作による低濃度PCB油の漏洩	12月9日	○
	北海道	当初施設屋上に設置された冷却塔の一次冷却水戻り配管からの冷却水の漏洩	12月13日	—
	豊田	洗浄前保管エリアの排液ポット下部におけるPCB含有浸漬洗浄油の漏洩	1月23日	○
運転 異常	大阪	東棟生成物回収室における配管のフランジ部からのPCB非含有溶媒油の漏洩	6月27日	—
	豊田	真空超音波洗浄エリアにおける金属製フレキシブルホースの破断による洗浄槽冷却水の漏洩	9月19日	—
	豊田	中間槽エリアにおける第2再生溶剤受入ラインの自動弁グランド部からの洗浄溶剤の漏洩	1月11日	○
労働 災害	北海道	増設施設での階段の踏み外しによる協力会社監督員の左足ふくらはぎ挫傷	10月19日	—

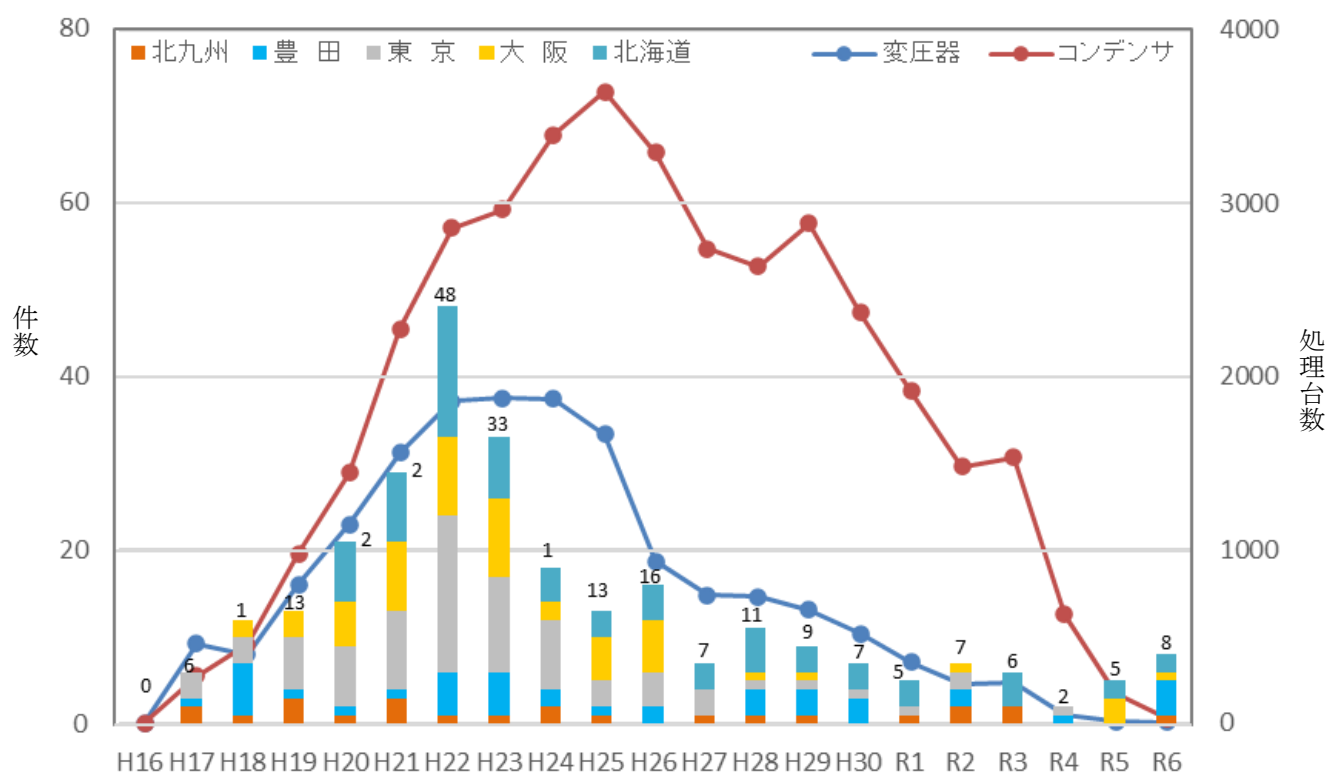
※ トラブルの概要、対応等詳細は別紙3を参照。

○連絡・公表ルール

トラブルについては、事業開始当初から個々のケースに応じて、地元自治体や環境省、各事業部会、監視委員会等へ報告等してきたところであり、平成22年度には、その経験等を整理、体系化して全社的な連絡・公表ルールを整備し、平成23年度に事業検討委員会に報告の上、現在も運用を継続している。

○トラブル発生件数とPCB廃棄物処理台数の推移

図6に北九州事業所の開所以来のトラブル発生件数と変圧器及びコンデンサーの処理台数を示す。トラブル件数は平成22年度がピークとなっている。この時期には変圧器及びコンデンサーともに処理の最盛期を迎えており、この影響が主要因となってトラブル件数が増加したものと考えられる。その後、処理量はゆっくりと減少しているが、トラブル件数は急減しており、経験を活かしたトラブル回避の取組が進んできたことが確認できる。



※ 平成16年度は、北九州事業所のみ12月から操業、トラブルは0件。

図6 トラブル発生件数の推移

○トラブル対策チームの設置

トラブルが減少傾向にあるなか、令和2年8月に過去のトラブルと類似した事案が発生した。類似トラブルの発生は、過去の反省が生かし切れていないと判断されたことから、令和2年9月、トラブルに関する幅広い知見を有する外部有識者を交えた「トラブル対策チーム」を本社に設置した。トラブル対策チームは、各事業所で生じたトラブルの原因究明や再発防止対策の検討に参画するほか、定例会議を開催して、類似業種のトラブル事例を含め各事業所への水平展開を行うなど、トラブルの未然防止を推進している。

今後、解体撤去工事の本格化に伴い、非定常作業の増加や新たな業者の入構などが見込まれるため、トラブル対策チームによる情報収集や関係者間の情報共有などを進め、トラブルの発生防止に努めていく。

(2) ヒヤリハットに関する取組

事故や施設のトラブル、労働災害等は、機器の誤作動や作業者の誤認、不注意などの様々な要因が積み重なって発生するため、その要因を一つでも回避できれば、トラブルを未然に防止できるとの考え方から、各 PCB 処理事業所においてヒヤリハット活動を実施している。ヒヤリハット等の報告件数は、平成 22 年度をピークとして減少傾向にあり、前ページのトラブル発生件数と同じ傾向を示している（図 7 参照）。ヒヤリハット活動を通じた作業者の意識向上や作業環境の改善などもトラブル減少の要因となったことが推測される。

ヒヤリハットの報告や提案に基づき設備・作業等の改善状況のフォローアップを行っている。また、ヒヤリハットの評価にリスクアセスメントの考え方を取り入れており、ヒヤリハットに至らない危険性をキガカリとして共有するなど、ヒヤリハット活動の活性化やこれを通じたリスクの低減・トラブルの防止に取り組んでいる。また、機器の劣化や誤作動などを不具合情報として共有している。

このように各事業所で発生した環境・安全に関わる諸問題を社内で広く共有することにより、重大なトラブルの発生予防を行うとともに、リスクに対する感受性や安全意識を向上させるため、不具合情報やヒヤリハット情報のうちリスクの高いものを「インシデント」に指定し、全事業所で共有する取組を平成 28 年 12 月から開始している。また、解体撤去工事の本格化に備え、インシデントに至らない事象についても全事業所で共有できる仕組みを令和 6 年 11 月から開始したところである。

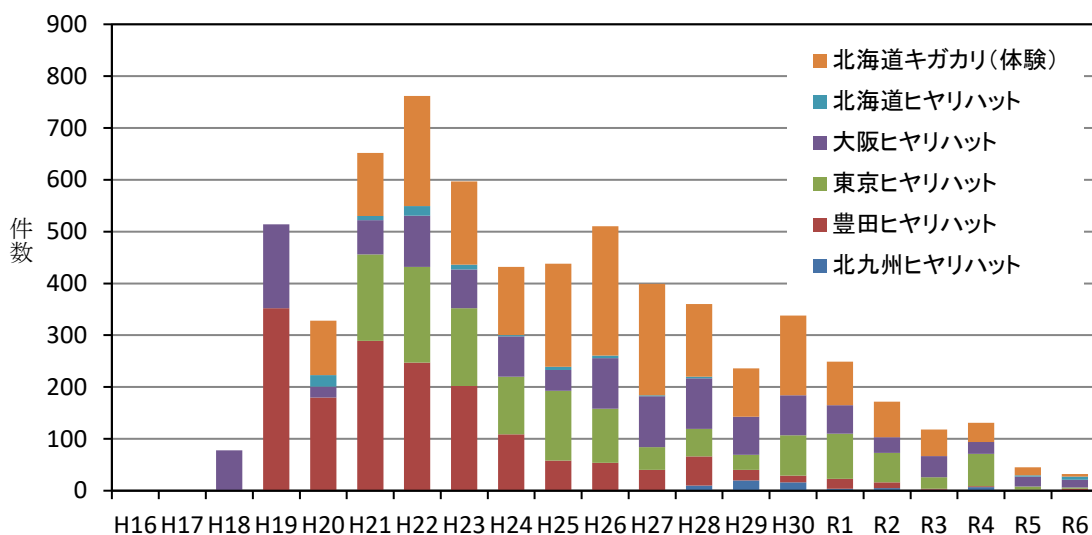


図7 ヒヤリハット報告提案件数の推移

6. 操業に関わる情報公開の実施状況

(1) ホームページによる情報公開

各 PCB 処理事業所の運転状況の報告として、操業状況（操業中、定期点検中、停止中など）をホームページ（下記参照）に掲載し、処理実績・維持管理記録、環境モニタリング結果を更新することにより情報公開に努めている。また、各 PCB 処理事業所の活動状況等を定期的に事業だよりによりまとめており、発行後、速やかにホームページに掲載している。

トラブル等が発生した場合は、環境安全トラブル連絡・公表ガイドラインの公表方法に従い、ホームページ等で公表している。

北九州処理事業所：<https://www.jesconet.co.jp/facility/kitakyushu/report.html>

豊田処理事業所：<https://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/report.html>

東京処理事業所：<https://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/report.html>

大阪処理事業所：<https://www.jesconet.co.jp/facility/osaka/report.html>

北海道処理事業所：<https://www.jesconet.co.jp/facility/hokkaido/report.html>

(2) 施設見学

各 PCB 処理事業所の施設見学者数の推移は、表 8 及び図 8 のとおりである。また、見学者区分による内訳を表 9 に、施設見学者数の令和 6 年度の月別状況を表 10 に示す。

表 8 各 PCB 処理事業所の施設見学者数の推移（単位：人）

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
北九州	1,905	2,583	2,165	1,427	1,660	1,557	1,200	835	979	664	1,227	847	839	1,079	611	617	85	145	228	272	51	20,976
豊田	-	955	808	814	715	472	362	374	391	297	217	390	267	201	169	139	57	7	28	37	16	6,716
東京	-	1,048	1,310	1,938	1,669	1,578	1,292	596	823	1,235	665	861	813	816	540	513	0	13	142	120	105	16,077
大阪	-	-	2,129	3,333	1,100	650	624	482	501	465	518	280	412	474	291	309	10	52	59	14	13	11,716
北海道	-	-	-	990	2,510	1,320	1,102	817	908	1,590	1,356	1,151	1,275	1,001	985	1,011	0	354	868	1,057	759	19,054

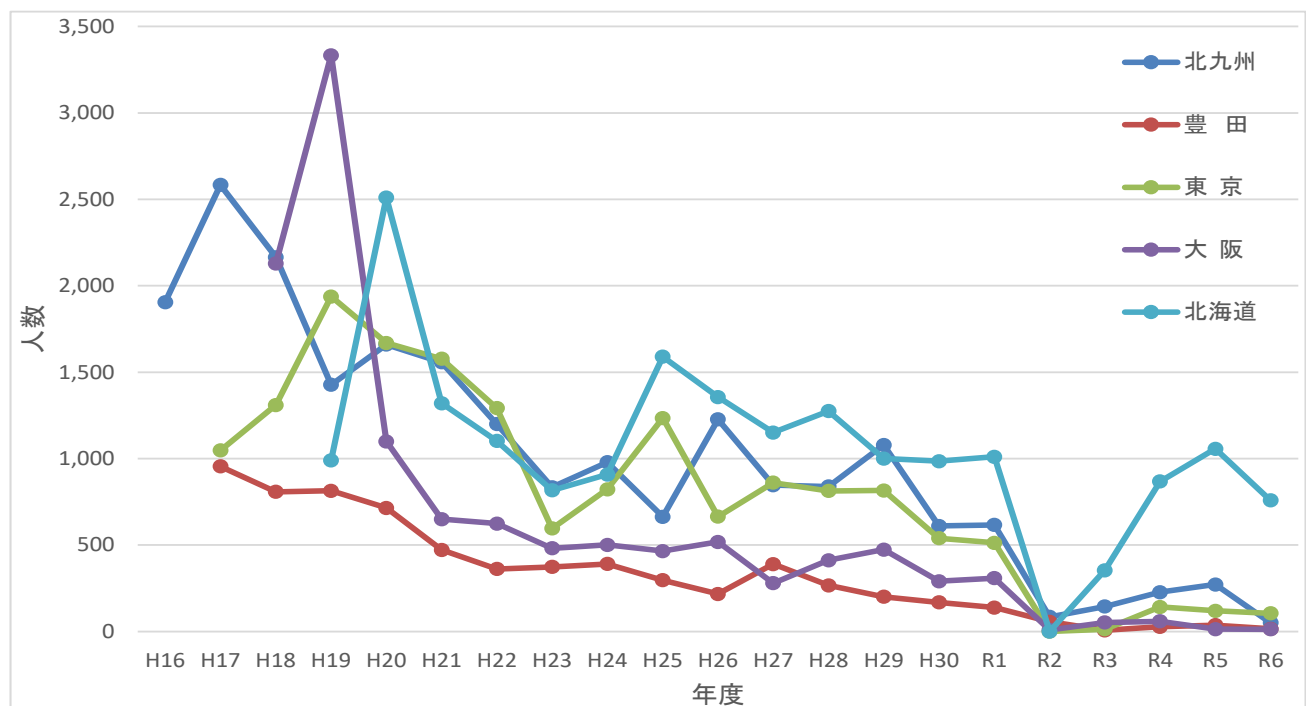


図 8 各 PCB 処理事業所の施設見学者数の推移

表 9 各 PCB 処理事業所の施設見学者の内訳（人）

区分	①行政関係者	②保管事業者	③保管事業者以外の企業等	④地元住民	⑤個人・一般	⑥教員・学生	⑦教員・高校生以下	⑧海外からの見学者	⑨その他	⑩不明	H16～R7.1までの見学者合計
北九州	4,785	6,374	1,563	1,069	35	1,526	1,771	807	108	2,938	20,976
	22.8%	30.4%	7.5%	5.1%	0.2%	7.3%	8.4%	3.8%	0.5%	14.0%	100%
豊田	1,246	2,179	345	263	19	50	2	0	591	2,021	6,716
	18.6%	32.4%	5.1%	3.9%	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	8.8%	30.1%	100%
東京	2,609	1,198	6,285	47	4,591	277	143	927	0	0	16,077
	16.2%	7.5%	39.1%	0.3%	28.6%	1.7%	0.9%	5.8%	0.0%	0.0%	100%
大阪	2,167	2,495	5,317	75	692	381	4	287	296	2	11,716
	18.5%	21.3%	45.4%	0.6%	5.9%	3.3%	0.0%	2.4%	2.5%	0.0%	100%
北海道	3,851	4,460	2,271	2,224	883	1,801	2,719	845	0	0	19,054
	20.2%	23.4%	11.9%	11.7%	4.6%	9.5%	14.3%	4.4%	0.0%	0.0%	100%

※見学者区分④について、北九州・豊田は市内、東京・大阪は区内、北海道は周辺市内（室蘭市、登別市、伊達市）。

表 10 令和 6 年度における各 PCB 処理事業所の月別の施設見学者数（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
北九州	3	2				11	20			15	－	－	51
豊田		11		5							－	－	16
東京	0	0	0	23	0	0	32	26	11	13	－	－	105
大阪	0	6	0	0	0	0	0	7	0		－	－	13
北海道	11	15	76	29	148	109	47	292	3	29	－	－	759
合計	14	34	76	57	148	120	99	325	14	57	－	－	944

※ 4 月から 1 月までの集計。

（３）環境報告書の作成

環境配慮促進法第 9 条第 1 項の規定に基づき、毎年、前年度の環境配慮等の状況を環境報告書としてとりまとめて発行・公表している。令和 6 年度は 9 月に発行・公表し、ホームページ（<https://www.jesconet.co.jp/company/environment/envirorep.html>）に掲載するとともに、自治体等関係者・関係機関へ配布した。

7. 施設の解体撤去工事の概況

JESCO の PCB 廃棄物処理施設の解体撤去は、「PCB 廃棄物処理施設の解体撤去にあたっての基本方針」（令和3年11月策定）や「PCB 廃棄物処理施設解体撤去実施マニュアル 共通編（改訂第2版）」（令和6年9月）等を踏まえ安全確実に実施していくこととしており、一般的な流れは図9のとおりである。

また、各 PCB 処理事業所における解体撤去の進捗状況は、表11のとおりとなっている。詳細は資料3-1に示してある。

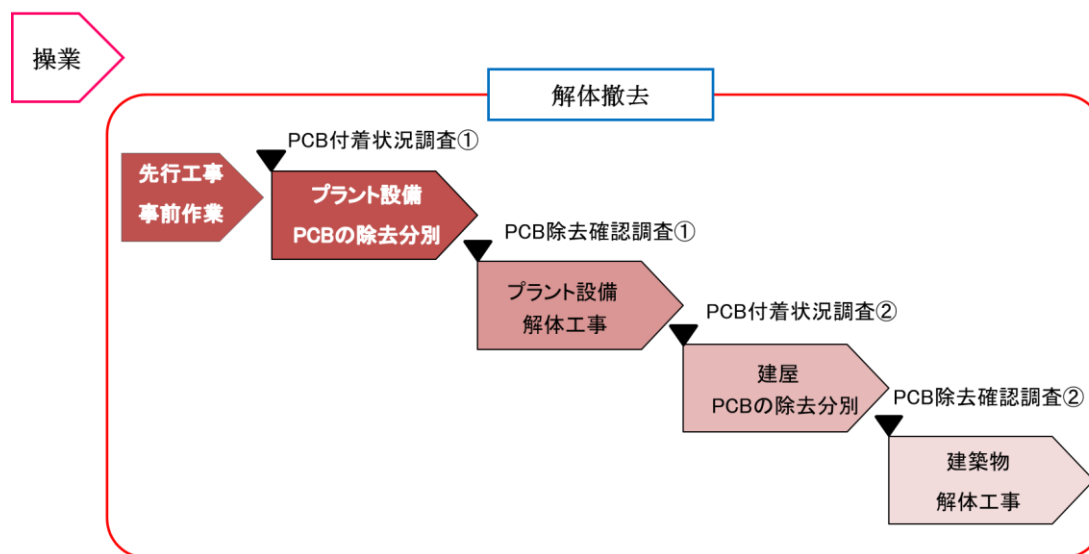


図9 PCB 処理施設の解体撤去の範囲と順序の概要

表11 PCB 処理施設の解体撤去の進捗概況

令和7年2月末時点

		北九州		豊田	東京	大阪	北海道	
		1期	2期				当初	増設
先行工事		完了 R元年度～ 3年9月終了	実施中	実施中	実施中	実施中	実施中	未実施 未定
事前作業		完了 R元年度～ 3年9月終了	実施中	実施中	実施中	実施中	実施中	未実施 未定
プラント 設備	PCB 除去 分別	完了 R3年度～ 4年12月終了	実施中	実施中	未実施 R8～9年度	実施中	未実施 R8年度以降	未実施 未定
	解体 撤去	完了 R4年度～ 6年6月終了	計画 R5～10年度	未実施 R8～10年度	未実施 R8～11年度	未実施 R7～9年度	未実施 R8年度以降	未実施 未定
建築物	PCB 除去 分別	実施中	未実施 R10年度～	未実施 R9～11年度	未実施 R8～12年度	未実施 R9～11年度	未実施 R8年度以降	未実施 未定
	解体 撤去	計画 R7～8年度	未実施 R11年度～	未実施 R11～13年度	未実施 R13～14年度	未実施 R11～12年度	未実施 R8年度以降	未実施 未定

8. その他

(1) 内部技術評価

当社では、PCB 廃棄物処理事業の円滑な実施のため、PCB 廃棄物の安全、確実な処理及び事故等の未然防止の観点から、全 PCB 処理事業所を対象に年 1 回の内部技術評価を実施している。

令和 6 年度は、①操業計画に基づく処理の進捗状況、②保全計画に基づく設備保全の実施状況、③処理施設の解体撤去の進捗状況、④運転廃棄物及び処理施設解体撤去物の処理状況について評価を行った。その結果、全事業所を通して指摘事項はなく、PCB 廃棄物の処理が計画的に進められていること、設備保全、処理施設の解体撤去及び運転廃棄物等の処理についても問題なく、順調に作業が進められていることを確認した。

令和 6 年度の内部技術評価の実施結果の詳細は資料 4-1 に示してある。

(2) ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得・運用状況

地元自治体との環境保全協定等に基づき、平成 18 年以降、各 PCB 処理事業所で順次認証を取得し、第三者の定期的なチェックを受けて信頼と安心の向上に努めてきた。その後、全社環境マネジメントシステムを運用し、平成 24 年 2 月 10 日付で本社と全 PCB 処理事業所を含めた全社統合認証の登録を受けた。

処理事業が終了した北九州事業所が、令和 6 年 10 月、地元自治体の意向を受け、協定の見直しを進め、「解体撤去マニュアル等」に沿った新たな環境マネジメントシステムを導入した。今後、このマニュアルに沿っていることの公表等を通じ、適切な環境管理を進めていることを周知することとなる。

また、北九州事業所を除く 4 事業所及び本社については、認証の定期審査を受審し、不適合の指摘はなく、令和 7 年 1 月 14 日に認証登録の継続が承認された。ISO14001 の審査は、本社は毎年受審、各事業所の現地審査は抜き取りとなっており、令和 6 年度は、大阪、北海道の 2 事業所が現地審査を受審した。